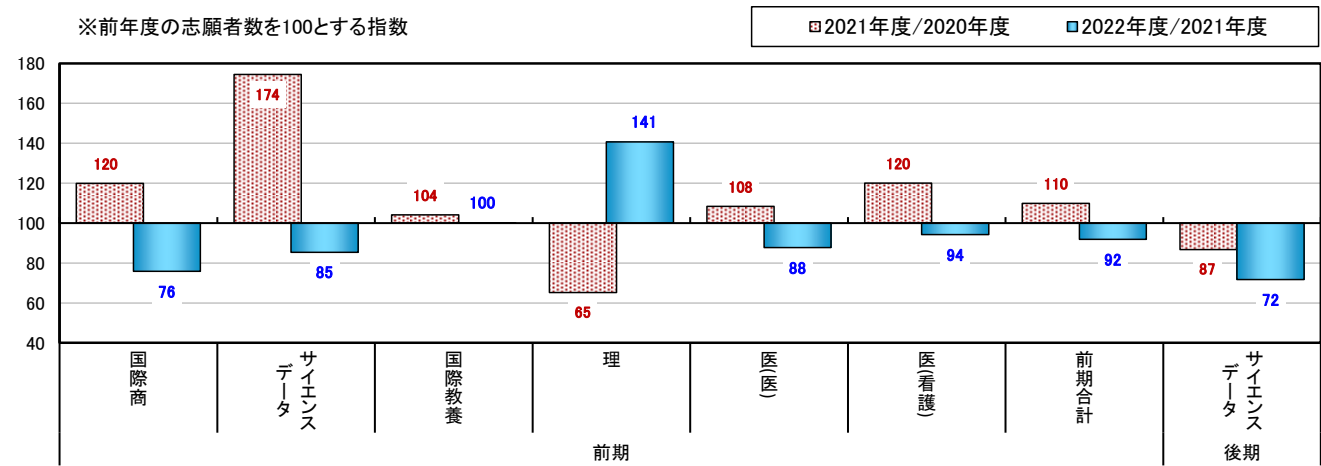


横浜市立大：前期は国際教養を除き、前年度逆の増減

前期：-179人 後期：-24人



主な入試変更点 個別試験：医(医)＜前＞…数＜400＞+理2＜400＞+外＜400＞=総点＜1,200＞  
→数＜400＞+理2＜600＞+外＜400＞=総点＜1,400＞

COMMENT ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は179人(92)の減少。学部(医は学科)別では、理は74人(141)で前年度大幅減少の反動で大幅増加、国際教養は1人(100)のみの微増だが、他の4学部・学科はいずれも減少で、国際教養を除くと前年度と逆の増減。後期は系統への人気が高いデータサイエンスのみの募集だが、前年度減少の反動はなく24人(72)の大幅減少で2年連続減少。志願倍率も17.0倍→12.2倍にダウン。共通テストの平均点ダウンの影響で高い目標ラインを敬遠。

<前期日程>

- 国際商(76)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。2019年度の改組の翌年から前年度の反動による大幅増減が継続。改組後初めて、志願者数は600人を下回り、志願倍率も3.9倍→2.9倍にダウンして、3倍を下回った。
- データサイエンス(85)は、系統への人気は高いが、前年度激増の反動に加えて、共通テストの平均点ダウンの影響で高い目標ラインを敬遠して大幅減少。
- 国際教養(100)は、微増で2年連続増加だが、志願者数は3年連続700人を下回り、志願倍率も4倍を下回った。
- 理(141)は、大幅増加で2019年度の改組後では初めて増加、志願倍率は2.6倍→3.7倍にアップし、改組初年度の2019年度に次ぐ高倍率。方式別では、個別試験が数+理2の<A方式>(137)は、2年連続減少の反動で大幅増加、個別試験が数+理1の<B方式>(148)は、前年度半減以下の大幅減少の反動で大幅増加。
- 医(医)(88)は、減少。第1段階選抜基準が共通テスト1000点満点中750点以上という基準点と志願倍率約3倍という2つの基準を併用したが、共通テストの平均点の大幅ダウンにより、従来は考えられなかった基準点をクリアできない志望者がいたことが大きく、さらに理科配点が重くなったことにより現役生に敬遠されたことが影響した。
- 医(看護)(94)は、前年度大幅増加の反動は小さくやや減少に留まり、志願倍率はダウンしたが、2倍に留まった。